

2017.3.3

進士 明宏 腫瘍内科部長

腫瘍内科といってもピンと来ない方、ご自身ががんになった、あるいは、身内の方ががんになって当科にご興味をもっていただいた方、いろいろな意味で情報を知りたい方など、様々な方に向けて、がん治療を専門にしている医師の一人として、毎月わずかずつながらでも情報提供をしていきたいと思いました。

できる限り、タイムリーな話題を提供しつつ、あふれる情報の中から、現時点で正しいと思われる情報をお伝えしたいと思います。

今回 一回目ということで、当科の紹介もかねて 『腫瘍内科』 というものについて 説明してみたいと思います。できもの のことを 『腫瘍』 といいます。 『腫瘍』 には 良性のもの と 悪性のもの があります。

悪性のものを『がん』 と います。

なお、国の統計などででてくる 『悪性新生物』 というのは 『がん』 のことを指します。私が仕事している『腫瘍内科』という科は、腫瘍を扱う内科ということになりますが、良性の腫瘍は概して通常放っておいて問題となることはありませんので、悪性のもの、すなわち、『がん』を扱う内科ということになります。

しかし 『がん内科』 と看板を上げてしまうとなかなか皆さんが受診しづらくなってしまふと考え、『腫瘍内科』というやんわり（腫瘍とすれば良性のものもありますので）とした名前にしたわけです。

当院以外の同じ内容の診療科はどのような名前になっているのでしょうか？

統計をとったことはないのですが本当のところはわかりませんが、やはり『腫瘍内科』と名前を掲げるところが多いとは思っています。他には『化学療法科』とか『総合腫瘍科』など、各病院がより受診しやすいように配慮した名前で看板を出していると思います。『化学療法科』は抗がん剤に代表されるような薬による治療をする科という意味で名付けられています。『総合腫瘍科』は、がん治療の総合商社的な役割を担う意味だと思います。いずれにしても、どの場所にできた『がん』でも対応しますという意味合いが奥には込められていますので、『がん』を心配された場合にまず受診していただくのに適した診療科ではないかと思えます。

『腫瘍内科』と書いてあるので、外科手術を必要とする場合はどうなんだと疑問に思う方もいるかと思えます。『内科』ですので内視鏡（胃カメラや大腸カメラ）を用いた手術を除いて、外科手術は行いません。外科手術が必要な際は、適切な診療科でスムーズに治療してもらえるように、検査予定や手術のお膳立てを行いますので、治療法にかかわらず受診していただいて大丈夫です。皆様にとってあまり当科に受診することは、（病気になった、あるいはそれが心配ということ）いいことではないとは思いますが、その時点で最良の対応ができるよう努力していきますので、ご心配の折は受診していただければと思います。

今回はこんなところで。 次回もよろしくお願ひします。